# NOW IS.

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

Vol. 21
January, 2018
ナウイズ
毎月11日発行

# つるの剛士

# 多賀城・七ヶ浜 in

撮影地：SHICHI NO HOTEL

# 『復興地』で感じた力強さと未来への希望。

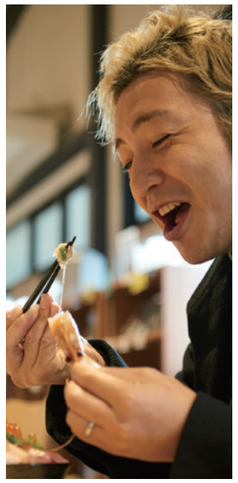
多賀城駐屯地にて。
被災した車両の前で木下茂之さんと。



## つるの剛士さんと多賀城・七ヶ浜で躍動する復興の力を感じる一日。

### 外の発想で町の魅力を再発見してもらいたい

「江の島の海と違うなぁ！色も違うし、穏やかで」。タレントのつるの剛士さんは、目の前に広がる松島湾を見て、大きくのびをします。この日最初に訪れたのは「SHICHI NO RESORT」。海沿いに立つオーシャンビューのホテルと、海を臨むウッディなカフェ、水産物を買える物産館「七のや」を集めた、七ヶ浜町の新名所です。案内してくれたプロデューサーの島田昌幸さんは「この辺は裏松島といって、隠れた景勝地なんです。海で釣りをして、バーベキューして、朝日を見て、別荘感覚で楽しめる場所にしたいんですよね」。客室はしゃれたリビングのような雰囲気。最新のキッチンを備え、少し特別な日常空間を演出しています。つるのさんは「釣りと料理って、好きなことだらけ！しかも、菖蒲田浜はサーフィンもいいんでしょ？」と笑顔。「沖縄やハワイみたいなリゾートになりそうだよね」。島田さんは「ぼくは北海道出身なのですが、浜も町も本当に魅力的だと思っていて。観光客に来てもらうのと同時に、七ヶ浜の方にも、魅力を再発見してもらえたらと思います」。「分かる！」とつるのさん。「自分も藤沢市に家族で移り住んだんだけど、地元の人って、すごい魅力が隠れていることに気づいていないことがある。外の人の発想で、町の人と一緒に、街を蘇らせられたらいいですよね」。



「七のや」では、山盛りの海鮮丼に舌鼓。この表情がおいしさを物語ります。

カフェで抹茶ベースのオリジナルドリンク「カマカリーノ」を。海を臨む店内は、こだわりぬいたインテリアが彩ります。

ホテルの客室は全室異なるインテリア。1階のテラスには、海水浴の帰りに使えるシャワーや、バーベキューセットも準備されています。

### 救助の最前線で知った自然の威力と備えの大切さ

次に訪れたのは、多賀城市の陸上自衛隊駐屯地。津波で1m近く浸水しましたが、隊員は震災当日から不眠不休で救助活動に取り組みました。つるのさんは、展示施設で当時の様子をまとめた映像を視聴。「家族の安否が分からない中、疲労困憊で救助に従事した」「子どもの遺体を見つけたときの場面は、今でも蘇ってくる」。生々しい証言と映像の数々に言葉が出ないつるのさん。案内してくれた広報陸曹の木下茂之さんは「退避！津波が来たぞ！という声で、屋上に駆け上がりました。物資も車両も水に浸かり、もどかしさと焦りが募る救助活動でした。自然をなめちゃいけない」と振りかえります。つるのさんは「自分たちは自然とともに生きているんだ、ということをいつも意識したいですね。時間が過ぎれば、人は忘れてしまう。それも一面ではいいことだと思いますが、備える気持ちだけは忘れちゃダメ」と強い表情でうなずきました。「ぼくは『被災地』という言い方をやめて『復興地』って言おうって言ってるんですが、今日は『復興地』の力を現実に見せてもらいました。未来は明るいなって、実感できた。海も人も最高ですね！また家族できます」。

「駐屯地は、かさ上げ工事がようやく終わり、ようやくこれから、というところです。最近では、南海トラフに備え、静岡などからの視察も増えました」と木下さん。

PROFILE

**つるの剛士**
つるの　たけし

1975年生まれ、福岡県出身。二男三女の父。1997年『ウルトラマンダイナ』で主役を演じ、一躍人気俳優に。歌手、タレントとしても活動するほか、釣り、サーフィン、将棋、料理など趣味も多彩。震災後は「居ても立ってもいられなくて」と東北各地で慰問やライブを行った。

沼田佐和子



# a walk this town !

この街の“今”を探索

### SHICHI NO HOTEL

平成29年12月22日、七ヶ浜町花渕浜にオーシャンビューのホテルがオープン。1階部分を柱だけのピロティ構造にし、防潮堤より高い2階部分に客室、屋上には避難デッキも完備。隣接する「SHICHI NO CAFE＆PIZZA」も同時オープンし注目を集めています。

### 海の駅 七のや

七ヶ浜町花渕浜の観光拠点として、平成28年2月にオープン。市場・加工所が隣接し、七ヶ浜の海で獲れる新鮮な海の幸を味わえます。食堂や鮮魚コーナー、浜焼きなどのほか、アンテナショップでは、宮城県内の特産品も販売しています。

### 陸上自衛隊多賀城駐屯地

東日本大震災では、津波により駐屯地が浸水しましたが、隊員は救援活動を不眠不休で行いました。「防衛館」という資料館では、震災コーナーで震災時の記録などが見学でき、震災の風化防止や防災・減災などの取り組みも行われています。

### 末の松山

歌枕として有名な多賀城市の標高10mほどの小山。貞観11年（869年）に発生した、推定M8.4以上の貞観地震では、津波は小山を超えませんでした。津波の教訓を伝える和歌の研究も進められ、風化防止や減災に向けて語り部活動も行われています。

### みんなの家 きずなハウス

七ヶ浜町生涯学習センター敷地内に、平成29年7月21日、リニューアルオープン。駄菓子やコーヒー、ブランド七ヶ浜認定の「ボーちゃん焼き」などがあり、町の交流スペースとして、気軽に寄れてゆっくりできる憩いの場です。また、地域住民の自主的な活動を応援する取り組みも行っています。

七ヶ浜町花渕浜（SHICHI NO HOTEL屋上からの眺望）

# Support Power

PROFILE
七ヶ浜町　復興推進課
瀧（たき） 敏行（としゆき） さん
愛知県春日井市より七ヶ浜町に派遣

## the 応援職員

NOW IS.
多賀城・七ヶ浜
Tagajo・Shichigahama

# 復興期間終結まで、しっかりと見届けたい。

瀧さんが担当している「代ヶ崎浜」地区

「代ヶ崎浜地区 夏まつり」のいきいきくらぶのみなさんと区長さん。お祭には瀧さんも参加しました。

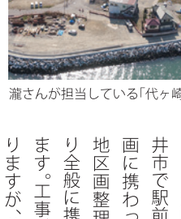
若い世代の応援職員が多い中、定年退職間近で愛知県春日井市から七ヶ浜町に派遣された瀧さん。春日井市の自宅に家族を残し、平成26年に着任しました。「出身は兵庫県西宮市。阪神・淡路大震災の時、高校生まで育った街の変わり果てた姿を見て涙が出ました。当時は支援に携わる機会がなかったので、今度こそ支援に携わりたいと思っていました。副市長から派遣の打診があった時は、もちろん快諾。ただし1年ではものにならない。最低3年は行かせて欲しいとお願いしました」。

七ヶ浜町に来て4年目。春日井市で駅前再開発事業の都市計画に携わった経験を生かし、土地区画整理事業など、まちづくり全般に携る業務を担当しています。工事が完了した地区もありますが、花渕浜地区と代ヶ崎浜地区の一部は現在も進行中。特に現地再建者が多い代ヶ崎浜地区では、着任当初から前線に出て土地の権利者に対応しています。「派遣職員は1年で帰還することがほとんど。担当が変わることによる不信感を排除するために、直接足を運び、住民の言葉を聞きながら交渉しています。特に代ヶ崎浜地区は津波被害を受けた建物が残り、それを修繕して暮らしている住民が多い地区。日々の生活がある中で道路を広げ、騒音や振動がある工事を行うわけですから大変なことです。なるべく住民の気持ちに寄り添い、難しくてもできることは全て対応することを肝に銘じて仕事をしています」と話す瀧さん。担当地区の行事にも準備から積極的に参加して、今では区長さんともすっかり顔なじみになったそうです。

七ヶ浜町に来て1年で定年退職を迎え、現在は再任用職員として勤務。七ヶ浜町の復興期間が終了する平成32年度末までには、全ての土地区画整理事業を完了させなければなりません。「町役場の窓から見える海の景色が好きなんです。再任用期間はあと2年なので復興期間終結までは1年足りませんが、できることなら最後までここにいて、風光明媚な町の復興を見届けたいですね」。

## info/area

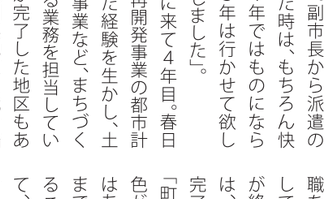
{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



### 東日本大震災復興祈念特別展「東大寺と東北−復興を支えた人々の祈り」

多賀城市と友好都市関係にある奈良市の名刹、華厳宗大本山東大寺の特別な協力を得て、復興を祈念する展覧会を開催。東大寺は長い歴史の中で、二度にわたる大きな災禍を乗り越え復興を成し遂げました。史料や寺宝の展示を通して、東大寺の歴史と復興の道のりが、震災からの復興を願う東北の人々にとって、「未来への道標」となることを願って開催します。

●日時：平成30年4月28日（土）〜6月24日（日）9時半〜17時（最終入館16時半）
●場所：東北歴史博物館　多賀城市高崎1-22-1
☎022-368-0106



### 七の市

七ヶ浜町でとれた新鮮な魚介類や野菜などを、安全・安心・安価で提供する朝市。毎月行われており、その時期の旬の食材を手に入れることができます。特別企画や屋台も出店します。

●日時：毎月最終日曜（5月11月を除く※要問合せ）8時〜12時
●場所：七ヶ浜町役場前駐車場
☎070-5099-7337（七の市開催実行委員会）
MAIL：shichinoichi@yahoo.co.jp

### 今月のガイド

株式会社ワンテーブル
代表取締役
島田（しまだ） 昌幸（まさゆき） さん

「食を通じて新しい東北を自分たちの形でプロデュースできたら」。と話す島田さんは、北海道出身。さまざまなビジネスの立ち上げに関わり、平成21年から農林水産省補助事業「マルシェ・ジャポン仙台」の運営に携わります。

震災後、「SHICHI NO RESORT」や名取市の「ロクファーム アタラタ」など、復興に向けた新たな雇用と東北の再生モデルの創出を目指した農林漁業6次産業化モデルファームを展開しています。

「SHICHI NO RESORT」を、沖縄やハワイのようなマリンリゾートにしたいと島田さんは言います。「たくさんの人たちの心の奥底にある『海でやりたいこと』を表現していきたいですね」。



# 記者の視点

## 被災地で事業再建、地域貢献の思い強く

子どもの椅子に使われた寄贈の積み木

多賀城市は仙台港から近く、東日本大震災による津波が多くの事業所や工場を襲った。内陸に再建するかとどまるか、被災した関係者は選択を迫られた。

仙台港周辺での事業再生を選んだのが、中小企業7社でつくる「仙台港自動車関連産業復興グループ」。前々から親密な関係というわけでは必ずしもなかったが、国や県から補助金を得て再生を促進するために結成した。

「内陸移転を考えましたが、金額や広さなど見合う土地がなくて。関連企業の集まるこの地に残ることを選びました」。

代表を務める新生自動車工業の大津晃一社長（54）は、小説家の北方謙三氏のような風貌で、落ち着いた口調で熱く語る。空き地の目立つ市内の被災地に工場を再建するのは、大きな決断だった。

グループは昨年12月、独自に作った発泡樹脂製の積み木を市内の桜木災害公営住宅にある保育所に贈った。ビニールレザーで覆い、軽くて形崩れしにくく、椅子や踏み台になる大きさにしたのが特徴だ。

グループに参加する黒潮重機興業の総務課長高橋ひとみさん（40）が、幼稚園教諭の経験を生かして開発に当たった。目指すは1年後の商品化。新分野開拓の意欲は、復興にも大きな力になるだろう。

大津さんの本業は震災前の売り上げに戻っていない。「等身大の経営を心掛けています。以前より地域貢献の思いが強くなりました」。

地に足を着けた再建を応援したい。

筆者プロフィール
河北新報社多賀城支局
高橋（たかはし） 秀俊（ひでとし） さん
1964年生まれ、二本松市出身、88年入社、多賀城支局

NOW IS.

# 防災

## 伝えることで防災につなげる！

宮城県各地で行われている防災・減災の取り組みから、日々の備えに生かせるヒントを探していきます。

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人ひとりが自分の身を守る「自助」が重要。そのためには、防災に対する正しい知識を身に付けることが必要です。今回は、宮城県在住の防災士が集まり、防災・減災の啓蒙活動を行う「防災士会みやぎ」の取り組みから、家庭でできる防災について考えてみましょう。

### 家庭防災のヒント

**1 家に一人、防災担当を！**

職場や集合住宅で防災担当を置くのと同じように、家庭でも防災担当を任命しましょう。家庭で家族を守ることが最優先！「そなえ」「ひなん」「れんらく」など、家庭独自の防災体制を作っていくことが大切です。

**2 家族に教えることでスキルアップを！**

防災担当に任命されたら、防災知識を学ぶだけではなく、家族にそれを教えることが重要。自分が得た知識を人に分かりやすく伝え共有することは、自分の学びを深めることにもつながります。防災士の資格を取るのもおすすめ。

非営利活動法人
**“防災士会みやぎ”**

防災イベント、防災訓練への参加や、防災講演、小中高校での出前授業など、防災・減災知識の啓蒙活動を行っています。会員向けの研修も実施。防災関連施設の視察や、話し方・伝え方の講習など、防災士としてのスキルアップを図る仕組み作りにも取り組んでいます。

【取材協力】
NPO法人「防災士会みやぎ」副理事長 黒田（くろだ） 典子（のりこ） さん
フリーアナウンサー。「防災士会みやぎ」では防災研修、減災絵本の読み聞かせを担当。防災イベントのコーディネーターやパネリストも務める。

〈お知らせ〉
「防災士会みやぎ」では、ともに活動する仲間を募集しています。また、防災講演やセミナーの講師もご紹介していますので、気軽にお問合せください。jimukyoku@bousaishi-miyagi.org（防災士会みやぎ）

# 震災の経験や学校で学んだことを次の世代に伝えたい。

（上）浦戸諸島（塩釜市）へ野外実習に。タブレット端末とアプリを駆使し、植物の生態や地質を調査します。
（左）東日本大震災の津波の跡と約1000年前の貞観津波の跡を、生徒たちが歩いて回り、作成した「多賀城津波伝承まち歩きMAP」。
（右）学校には立体的な地形図や3Dの海底図もあり、学んだことを目で見て確かめられるようになっています。

## 災害や防災の知識を魅力的に組み込んだ授業

平成28年4月、多賀城高校に全国で2例目となる防災系の学科「災害科学科」が開設されました。普通科の授業に加え、防災や災害に関する授業を幅広く取り入れているのが特徴で、東北大学の教授を招いた授業や、災害のメカニズムを学ぶ実習など、科学的な視点から防災・減災を考える教育が行われています。

おもしろい授業は？との問いには、2人とも「くらしと安全」と声をそろえます。「くらしと安全」は、家庭科と保健を組み合わせた授業をベースに、災害時にも使える暮らしの知恵なども学ぶ授業です。「調理実習では、電気やガスがない災害時にどうやってごはんを作るか勉強しました」「洗濯機がないとき、どうやればきれいに洗濯できるかなど、知っておけば役に立ちそうなことを学べます」とイキイキ説明してくれます。

## 学んだことはどんどん話し、伝えたい

「めったにできない経験がたくさんできる」というのも2人の共通意見。佐藤さんは「『つくば研修』がすごくおもしろかった。茨城県のJAXAに行って、衛星を使った地形の解析について勉強してきました」と目を輝かせます。

一方、渡邉さんが印象に残っているのは、被災体験を聞く授業だとか。「お腹に赤ちゃんがいるときに震災を経験した方の話を聞きました。津波にのまれそうになりながらも、この子のためにも生きないといけないと、一生懸命逃げたそうです。中学までは、誰かの体験談を聞くことがほとんどなかったので…。こういう機会に恵まれて、有り難いなと思います」。

家族や友達に学校の授業のことを話すと、熱心に聞いてくれる人が多いと言います。「災害科学科で学んだことを、私たちが伝えていければいいなと思います。これから、震災を経験したことがない子どもたちも増えてきます。実際に経験したことや学んだことを、教えてあげたいなと思います」と渡邉さん。

佐藤さんは「ぼくは震災のとき、近所の人に『家族と連絡を取る手段がなかったら、紙に書いて玄関に貼っておけばいいよ』と教わって、すごく助けられました。そういう簡単な知識も、知っている人が言わなければ、知らない人には伝わらない。被害を受けた地域に生まれて、こういう高校で学べるのは、やはり貴重な経験なんだと思います。だからこそ、地震や防災の知識を身につけ、意識を高めていきたいと思います」。

2人は1年生。将来、どんな職業を選ぶかは、まだ分かりませんが、次世代の防災を担う人材として、力強い一歩を踏み出していました。

### 県内で仮設校舎等を使用している小・中学校、高等学校

平成29年10月末時点

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 仮設校舎を使用 | 1 | 1 | 2 | 4 |
| 他の学校を使用 | 2 | 1 | | 3 |

※参考：被災した学校数729校（県立・市町村立・私立）。
※いずれの学校も平成30年以降、移転新設または他の学校と統合予定

PROFILE

宮城県多賀城高等学校災害科学科 1年

佐藤（さとう） 岳（がく）さん
多賀城市生まれ、多賀城市立東豊中学校出身。

渡邉（わたなべ） 怜那（れいな）さん
七ヶ浜町生まれ、七ヶ浜町立七ヶ浜中学校出身。

NOW IS. vol.21 ナウイズ

発行：平成30年1月11日　宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel：022-211-2443　Fax：022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県 Miyagi Prefectural Government



# INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

## 01 復興応援・復興フォーラム2018in東京 ～来て！見て！感じて！ 忘れないが支援の新たな一歩になる～

東北４県（青森県・岩手県・宮城県・福島県）と東京都は「被災地の今」を伝え、震災の記憶の風化防止と被災地への支援の継続を呼びかけるフォーラムを開催します。ぜひご来場ください。申し込みは、ホームページから。

日時：平成30年2月17日(土)11：00～16：00
会場：東京国際フォーラム
（東京都千代田区丸の内3-5-1）

問.東日本大震災風化防止イベント事務局
☎.022-265-1509
https://fukkou-forum.jp
締め切り：平成30年1月31日(水)17時

入場無料（事前申込制）

宮城県知事・東京都知事による
トークセッション

村井嘉浩
宮城県知事

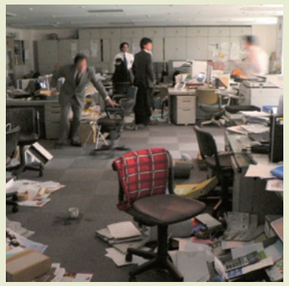
小池百合子
東京都知事

野球評論家
野村 克也氏による
支援継続の呼びかけ
野村克也氏

## 02 当時の記憶をお寄せください ～もう一度振り返る私の3.11～

多くの人の人生や考え、行動を変えた東日本大震災。しかし、月日の経過とともに、その記憶は薄れてきています。

宮城県では、震災の記憶の風化を防止し、防災意識をより高めるため、震災当時の体験や震災に対する考え、想いを寄稿いただき、ウェブサイトで公開しています。寄稿をご希望の方は、「みやぎ復興情報ポータルサイト」をご覧ください。



問.県震災復興推進課
☎.022-211-2443

詳細は
みやぎ復興情報ポータルサイト で検索

# MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報
ポータルサイトは
コチラから！

http://www.fukkomiyagi.jp

宮城の復興情報を発信する、
「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。
復興に関するお知らせや復興の進捗状況、
復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで！

## 今月のブログピックアップ

いわたかれん
復興フォト
岩田 華怜

仙台市出身の女優。AKB48を卒業し、被災地の「今」を伝えたいと写真の勉強を始めました。

これまでの被災地訪問は80回を超える岩田さん。「写真」に願いを込めて、月1回被災地の状況を発信しています。

今回は女川町。駅エリアに移設したトレーラーハウス宿泊村「Elfaro（エルファロ）」を訪れました。

NOW IS.
復興インタビュー

このブログでは、被災地で復興に向けてさまざまな取り組みを行う団体などをご紹介します。

NOW IS.取材チーム

今なお復興への道筋を歩む被災地の「現在（いま）」と「現実（いま）」を伝えたいと、日々被災地をめぐっています。

@東松島市

小野駅前仮設集会所で、入居者の女性たちが靴下で作った人形「おのくん」。

JR陸前小野駅前の交流施設「空の駅」に移り、制作を続けています。全国の里親さんたちとの絆、今後の想いなどを伺いました。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧下さい。

●いまを発信！復興みやぎ　SNS「いまを発信！復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS.メールマガジン　NOW IS.の発行日（土日・祝日のときは翌平日）にメールでお知らせします。 NOW IS.メールマガジン で検索して登録！

取材こぼれ話 Voice from STAFF

## 自衛官の手帖

駐屯地の隊員が救助にあたったのは、仙台市以北、三陸の凄惨な現場でした。食料も乏しく「明日は食べられないかもと思うと、わずかな乾パンを食べるのも怖かった」と話します。つるのさんと訪れた「防衛館」には隊員の手帖もありました。「情報がさくそう」「消毒ない、アルコールティッシュ」など、乱れた文字と生々しい言葉の数々。復興へ歩を進めるとともに、忘れてはならないことは、確実にあります。

宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む） 10,564人 ｜ 行方不明者数 1,227人　平成29年11月30日現在宮城県危機対策課調べ

Vol. 21
January, 2018
ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

# NOW IS.

## 次は、私たちが みんなの役に立つ番です。

佐藤 岳
渡邉 怜那
多賀城高校 災害科学科

「うちは1階が浸水し、通っていた小学校に2日間避難してました。いつもと違って人が多くて、すごく疲れたのを覚えています。かわいがってくれた近所のおばあちゃんが亡くなったのはとても悲しかったです。辛かった思い出はたくさんありますが、楽しいこともありました。ボランティアの人が遊んでくれたり、自衛隊の人に親切にしてもらったり、新しい友達ができたり。こんな災害はもうないほうがいいんですが、もしあったら、今度は私がみんなに優しくしてあげたい」。渡邉さんは、小学3年生だった当時を振り返り、そう話します。佐藤さんも深くうなずきながら「震災を経験した身として、もし次に何かあったら、僕たちの世代が誰かの役に立つ番なんです」